

7月16日
外来生物駆除であるべき自然の姿へ
パークボランティアらがオオハンゴンソウ駆除



懸命に作業を行う皆さん
摩周・屈斜路パークボランティア(金井秀明会長)の皆さんが7月16日、環境省川湯自然保護官事務所、川湯エコミュージアムセンターの職員の方と一緒に、川湯温泉街の一角で特定外来生物オオハンゴンソウの駆除活動を行いました。

スコップを使って1本ずつ丁寧に根から掘り起こし、1時間ほどで約450本を除去。萱島拓郎自然保護官は「オオハンゴンソウは繁殖能力が高く、在来植物を押しよけて広がることが懸念される。自宅で見つけたら、できるだけ根から引き抜き、その場で枯死させ、一般廃棄物として処理してほしい」と話していました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

7月22日
ふるさとの釧路川を豊かに
リバープロテクション・21の会がヤマメを放流



無事に大きくなれと願いを込めて
釧路・リバープロテクション・21の会(上田光夫会長)によるヤマメの稚魚の放流が7月22日、摩周温泉公園の釧路川護岸で行われました。

魚類資源の回復のために毎年行っているもので、釧路開発建設部釧路河川事務所や町、会員など関係者約40人が参加。弟子屈小学校(佐野哲哉校長)の2年生52人も招待され、ヤマメの稚魚2,200匹を放流しました。上田会長は「昔のようにヤマメがいる川になってほしい」と話していました。

7月20日～8月31日
夏休みも川湯エコミュージアムセンターを満喫
夏休み企画と開館延長



川湯エコミュージアムセンターで7月20日～8月31日、夏休み企画「切り絵・塗り絵体験」が行われ、家族連れなどでにぎわいました。ゴールデンウィークから行われていた切り絵体験コーナーに、新たに塗り絵が登場。短時間で取り組める上、自分の好きな色でアレンジが可能と好評で、兄弟姉妹や親子でそれぞれ作品を見せ合い、夏休みの思い出の品として持ち帰っていました。

また、8月1日～15日には開館時間を1時間延長。来館した皆さんは夏休み企画の切り絵や塗り絵のほか、木工クラフトの制作や映像鑑賞など、ゆっくりと館内を楽しんでいました。

7月23日
オリンピックを前にブラジルについて理解深め
てしかが国際交流会主催の講演会



熱心に聴き入る参加者の皆さん
てしかが国際交流会(池上清子会長)主催の講演会が7月23日、川湯ふるさと館で開催されました。同会が2011年から行う国際交流イベント「もっと外国を知ろう」プログラムの一環で、今回で21回目。37人が参加しました。講師はブラジルに5年間滞在した経験のある三木明さん(美留和)で「オリンピックイヤーを迎えて ブラジル今昔」と題してトークを展開。参加者の皆さんは、日本からの移民も多く関わりも深いものの、普段なかなか知ることのないブラジルの話に聴き入りました。

7月22日～23日
キャンプで星空観察やカヌーを満喫
地域の方を講師に和琴小学校で土曜授業



カヌーで水上散歩
和琴小学校(鳴海厚校長)では7月22日から23日にかけて、土曜授業として学校キャンプを行いました。

同校では2014年度から、文部科学省と北海道教育委員会の実践指定を受け、年間10回程度の土曜授業を行っています。地域の方を講師に招いて、特徴的な授業を行っています。今回は学校でのキャンプを実施。地元のガイドの方を招き、初日の夜には星空観察を、2日目は屈斜路湖でのカヌー体験を行い、地元の自然の素晴らしさを再確認しました。

親子で集まれ! みんなで遊ぼう!

第13回子どもフェスティバル

楽しいイベントがいっぱいだよ!

毎年恒例となった「子どもフェスティバル」を開催します。今年の日曜日の開催で、テーマは『つくってあそぼ!』です。

子どもたちはもちろん、お父さんやお母さんも一緒に楽しみませんか? 皆さんのご来場をお待ちしています!

▶日時/9月11日(日)

●10時 歯ピカ表彰式(対象の方には役場健康推進課から事前にご案内します)

●10時30分～14時 あそびの時間

▶場所/町公民館

▶内容(予定)

- つくってあそぼコーナー(割り箸鉄砲・風車・紙皿フリスビー)
- 木工クラフト ●たき火のひろば(まき割り・パン焼き)
- プラバン制作 ●シャボン玉
- 北海道教育大学釧路校のコーナー ●弟子屈高校生によるコーナー など

当日は、バス・ワゴン車で送迎を行います。(児童は各小学校へ事前の申し込みが必要で) 一般の乗車希望の方は、乗車時間や停留所などを下記までお問い合わせください。



昨年のフェスティバルの様子

1日遊んでいく方は、お弁当を持ってきてください。冷たい麦茶(無料)を用意してあります。



問い合わせ先
子どもフェスティバル実行委員会(役場福祉こども課子育て推進係内) ☎ 4 8 2 - 5 6 6 7

アイヌの自然

アイヌの人たちに重要視された植物の一つに、トリカブトがあります。

狩猟で使う矢の先端に、この植物から抽出した毒を塗りました。即効性はありませんが、ヒグマを倒すときも用いられました。仕留めた肉は、矢が刺さった部分を少々大きめにえぐれば問題なく食べられたとか。まさに、自然界が作り出した毒の妙といえます。

トリカブトは根だけでなく、花、葉、花粉に至るまで全草に毒を含んでいます。

気品を感じさせる姿の植物ですが、見るだけにしておきましょう。



摩周湖畔線(道道52号)での外来種駆除(昨年)

園を選定しました。この事業は、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」へとブランド化することを目指すもの。本プロジェクトに基づき整備を進めていくことで訪日外国人旅行者が増え、公園内の活性化が期待されます。

EMC通信

～川湯の森から～

阿寒国立公園の魅力を伝えるために私たちができること

7月下旬、環境省は、外国人観光客の誘致強化に向けた「国立公園満喫プロジェクト」の候補地に阿寒国立公園を選定しました。この事業は、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」へとブランド化することを目指すもの。本プロジェクトに基づき整備を進めていくことで訪日外国人旅行者が増え、公園内の活性化が期待されます。

また、阿寒摩周国立公園への名称変更についても、環境省は来年7月をめどに手続きを進めています。環境省川湯自然保護官事務所は「これらをきつかけに、まずは地域の方々から自分たちの住む環境を見つめ直していただければ」と話しています。

国内外からの注目が集まり、国立公園の利用者が多くなることはとても喜ばしいことです。しかしその一方で、人の行き来に伴って、外来と在来の種が混在する可能性が高くなります。同公園内でも外来種「オオハンゴンソウ」が群落となり、他の在来種への被害が危惧されています。防除には時間と知識が必要ですが、この地に住む私たちが、迎える側として元来の自然を守り、伝えていくことも、おもしろい一つではないでしょうか。

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎ 4 8 3 - 4 1 0 0

URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 9月は8:00～17:00開館(毎週水曜日休館)

8月5・10・11日

地域の役に立ちたい 2社が社会貢献で墓地の草刈り



丁寧に作業する摩周植物園(上)と佐藤建設工業(下)

(有)摩周植物園(古瀬廣幾代表取締役)の皆さんが8月5日に川湯墓地で、10・11日には(株)佐藤建設工業(佐藤洋司代表取締役)の皆さんが弟子屈墓地で、それぞれ環境整備を行いました。

お盆を迎えるにあたり、お墓参りに訪れる皆さんが気持ちよく利用できるようと、社会貢献活動の一環として行ったもの。日々の道路維持作業での機動力を生かし、手際よく墓地内の草刈りを行いました。

8月5日

地域の役に立ちたい 美留和土地改良事業連絡協議会が立ち木を伐採



通行に支障となる立ち木を伐採

国営美留和土地改良事業連絡協議会(株)佐々木建設、辻谷建設(株)、クニオカ工業(株)、寺井建設(株)の皆さんが8月5日、町道美留和石狩別線周辺で道路に覆いかぶさっていた立ち木の伐採などを行いました。

日頃お世話になっている地域の役に立ちたいと、社会貢献活動の一環として行ったものです。4社合わせて15人が参加し、丁寧に作業を実施。美留和自治会はじめ地域の皆さんは、とても喜んでいました。

7月26日

弟子屈の馬が大活躍 第107回記念釧路種馬共進会で3頭が1等賞



上から勝号、矢尖号、レッド姫号

第107回記念釧路種馬共進会が7月26日、釧路市で行われ、勝号(藤田千代さん所有)が第1部で1等賞、矢尖号(阪口榮造さん所有)が第4部で1等賞、レッド姫号(長谷川義信さん所有)が第7部で1等賞に輝きました。同大会は1909(明治42)年から開催されています。今年26頭の馬が各市町村から参加。本町からも、6戸の馬産農家から12頭が参加しました。

9月25日(日)には、摩周観光文化センター向かいの摩周ばん馬場で第8回摩周ばん馬大会が開催されます。ダイナミックで力強いばん馬を楽しんでみませんか。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかげつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

8月6日

歩行者天国と音楽イベントで地域おこし 若者が企画したサマージャック弟子屈



サマージャック弟子屈(同実行委員会主催)が8月6日、中央通商店街で開催されました。

まちのにぎわいを取り戻したいと、上村剛志実行委員長をはじめとした町内の30代有志が企画したもので、昨年に引き続き2回目。さまざまな出店が通りを埋めたほか、多彩なイベントや弟子屈小学校吹奏楽少年団、弟子屈中学校吹奏楽部、PLパトントワラー弟子屈教室、I & Mパトスタジオの皆さんの発表が行われました。また、特設ステージでは、国内の第一線で活躍するレゲエ歌手の皆さんなどの公演も行われました。

8月6日

和琴半島で生き物同士のつながり感じる チームくっしゃろが主催のくっしゃろ講座



自然探勝で解説に聴き入る

チームくっしゃろ(斎藤敬子代表)主催のくっしゃろ講座第6回「和琴半島が教えてくれること」が8月6日、和琴半島で行われました。

同会は屈斜路湖周辺の歴史・文化の収集・発信などを行う地域活動団体。地域の魅力に触れてほしいと定期的に講座を開催しています。今回は「火山」「森」「湖」「アイヌ文化」といった魅力が詰まった和琴半島がテーマで、9人が参加しました。参加者の皆さんは、和琴ミンミンゼミなどについての解説を受けながら自然探勝路を散策したほか、釣りにも挑戦。地域の生物の生態や環境などについて理解を深めました。

7月29日

いざというときに備えて 給食センター職員が上級救命講習を受講



AEDの操作を実践

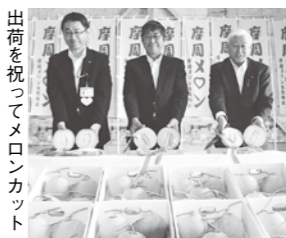
学校給食センターの職員の皆さんが7月29日、弟子屈消防署(鏡信雄署長)が行う救命講習プログラムを受講しました。

万が一に備えて、毎年この時期に受講しています。今年も、上級救命講習プログラムを受講。大人だけでなく、小児や乳幼児に対する心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使い方、止血法などを学びました。

救命講習は随時受け付けているので、希望する団体などがあれば、ぜひ受講してほしいと同署では話しています。

7月27日

今年も糖度十分 摩周メロン豊稔祭で出荷開始を祝う



出荷を祝ってメロンカット

摩周メロン生産組合(藤田重太郎組合長)の「豊稔祭」が7月27日、町農産物集出荷センターで行われました。豊稔祭では、川口覚摩周湖農協組合長と藤原将男弟子屈郵便局長、徳永町長がメロンカットを行い、摩周メロンの出荷開始を祝いました。

摩周メロンは同組合の9戸の農家が生産。同センターと摩周湖農協、道の駅「摩周温泉」、郵便局の「ふるさと小包」だけの取り扱いで、市場にはほとんど出回らないため、幻のメロンとも言われています。今年も、例年になく天候に恵まれなかったものの、生産者の努力で形、糖度共に例年並みの出来で、8月下旬まで約2万玉が出荷されました。

8月17日

聖月流日本吟剣詩舞道会川湯支部の谷田美優さん 剣詩舞のコンクールで4度目の全国大会へ

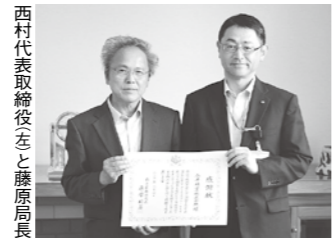


左から鈴木代表、谷田さん、教育長

7月3日に札幌市で行われたコロムビア全国剣詩舞コンクール大会北海道地区予選大会で、聖月流日本吟剣詩舞道会川湯支部(鈴木幸栄代表)の谷田美優さん(弟子屈高校3年)が詩舞第2部で優勝。8月28日に千葉県で開催される全国大会への出場を決めました。小学校2年生から同支部に所属している谷田さんは、今回で4度目の全国大会出場となります。8月17日に小林教育長に報告に訪れた谷田さんは「全国大会でも普段通りの演舞をしたい」と抱負を語りました。

8月8日

長年のクリスマスツリー寄贈で郵政事業に貢献 今井林業に弟子屈郵便局長から感謝状



西村代表取締役後左と藤原局長

郵政事業に長年貢献したとして、今井林業(株)(西村良雄代表取締役)に弟子屈郵便局長感謝状が贈られました。

贈呈式は8月8日に行われ、藤原将男局長から西村代表取締役に感謝状と記念品が手渡されました。

同社は20年ほど前から毎年、クリスマスツリー用のトドマツを同郵便局に寄贈しています。樹齢30年前後で形の良いものを選んでいるという木は、局員の手で飾りつけが施され、ツリーとして局内に設置。来局者の目を楽しませています。西村代表取締役は「できる範囲で町民の方に喜んでもらえることをしたい。今後も継続していきたい」と話していました。

8月2日

自然公園クリーンデーに合わせて 環境省などが屈斜路湖畔で清掃活動



手分けして丁寧にゴミ拾い

環境省や摩周・屈斜路パークボランティア、自然公園財団川湯支部の職員の方などが8月2日、道道52号沿いの屈斜路湖畔、約1キロにわたり清掃活動を行いました。

8月第1日曜日の「自然公園クリーンデー」の一環として毎年実施しているもの。今年も1時間ほどで約15キロのゴミを回収しました。多くは空き缶やペットボトルでしたが、中には折り畳み椅子やテントといった大型廃棄物も。参加者の皆さんは「景観が悪くなるばかりか、野生動物への悪影響も心配される。特に車からのゴミ捨ては絶対にやめてほしい」と話していました。

7月29日

旅人と地域の方の交流の場に ライダーハウス「旅人宿 昭栄」オープン



オープンを喜ぶ協議会の皆さん

南弟子屈地域活性化協議会(小澤重則会長)が運営するライダーハウス「旅人宿 昭栄」が7月16日にオープンし、同29日に地域の皆さんへの内覧会が行われました。

同協議会は、昭栄小学校閉校後の地域活性化や同校の跡地利用を検討する目的で、2015年4月に設立。地域が目指す将来像を決め、それを実現するためのプロジェクトを進めています。ライダーハウスもその一環で、旅人と地域との交流の場となることが目的。旧教員住宅を活用したもので、オープン以来、65人(8月23日現在)に利用されています。